

# 新潟県立がんセンター新潟病院 地域医療連携だより

NEWSLETTER



平成 27 年 2 月

## 院長 あいさつ



### 新潟県立がんセンター新潟病院 院長 佐藤 信昭

新年にあたり、ご挨拶を申し上げます。

地域住民の健康を守り、日々診療に努めておられる先生方に、心から敬意を表します。また、当院にご支援をいただき、誠にありがとうございます。本年もなにとぞよろしくお願い申し上げます。

「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」、すなわち「医療・介護総合確保推進法」が、昨年6月に成立しました。2025年へのロードマップとして病床機能報告が始まり、地域医療構想が策定されようとしています。医療改革は待ったなしの状況です。大きく変化する医療を取り巻く環境に対応するために、当院はがん診療の機能を強化、向上させ、患者さんから信頼される病院を目指さなければなりません。新しい年を迎え、気を引き締めて取り組んでいきたいと思っております。

これまでの「最善のがん医療を提供」していくことはもちろんですが、早期発見、早期治療により高い生存率をめざすため、各種がん検診にも力を入れます。二期目のがん対策基本法で重点的に取り組むべき課題とされた「働く世代や小児へのがん対策」の充実に努めたいと思っております。がん患者の就労を含めた社会的な問題は、相談支援センターの大切な課題と認識しています。

質の高い良質な医療を継続的に提供していくためには、病院の自助努力はもちろんですが、第三者による客観的な評価が欠かせません。昨年末から DPC データの分析を院外の機関に依頼してきました。その結果、当院では医療資源が効率的に活用されている反面、在院日数の短縮の必要性とより多くの職種の関わりによるチーム医療に関する改善すべき点などが指摘されています。これらの評価を踏まえて改革に努め、今後も再評価を継続いたします。

信頼していただける、より一層良質ながん医療を提供し続つづけるため、精一杯努力してまいります。先生方のご指導とご協力を心よりお願い申し上げます。



# 小児がんについて



小児科部長 小川 淳

ご存じのように「小児がん」は特定のがんの種類を示す言葉ではありません。15歳以下の小児に発症する悪性腫瘍の総称で、年間発症数は全国で2500人前後ですから希少で多種多彩ながん種が含まれていることとなります。小児がんの全生存率は80%近くに達するとされており、以前から「治るがん」の代表選手とされてきました。これは50年以上に渡る臨床試験の積み重ねと集学的治療の成果です。一方強力な治療による合併症に加え、成長発達期の治療により治癒した後もいわゆる晩期合併症の問題があり長期に渡る支援（長期フォロー）が必要とされることが明らかになっています。

そのような現状もあり平成24年に改定された国のがん対策基本計画では始めて小児がんが重点的に取り組む課題の一つに取り上げられました。「小児についても、がんは病死原因の第1位であり、大きな問題である。医療機関や療育・教育環境の整備、相談支援や情報提供の充実などが求められており、小児がん対策についても充実を図ることが必要である。」と謳われました。従来成人がんを中心とした国のがん対策に小児がんが取り上げられたのは画期的なことです。

当科でも院内各科、各部門との協同で良質な小児がん医療を提供するだけでなく、子どもたちの健やかな成長を願い院内保育や院内学級を設置しています。また相談支援センターのソーシャルワーカーや臨床心理士の協力でご家族の経済的な悩みや、様々なストレスに細やかな対応を心がけています。



小児がん医療は小児医療の中でもがん医療の中でもやや特殊な領域と捉えられているかもしれませんが。しかし子どもの健やかな心身の成長を前提としなければ成り立たないのは小児医療の他の分野と同様です。また家族支援や小児がん経験者（キャンサーサバイバー）に対する長期フォローは成人がん医療にとってもモデルになる取り組みなのではないかと考えています。

以上簡単ですが小児がんと小児がん医療について紹介させていただきました。



# より痛みのない状態でその人らしくすごせるために



## がん性疼痛看護認定看護師 長谷川 亜希

がん性疼痛看護認定看護師となって4年目となりました。昨年の4月に病棟から緩和ケア科外来に異動し、緩和ケアチームの一員として組織の変化に対応できる対人関係能力や専門的知識を深める必要性を実感する毎日です。

がん専門病院である当院は高度ながん治療・看護を提供し続ける役割を担っています。がん性疼痛緩和における自己の関わりの中で、医師・薬剤師などの多職種と連携しながら、現場のスタッフと痛みを和らげる最善の方法を検討していくことが院内の知識の底上げになると考えています。その検討する過程で大切にしていることは、やはり患者中心であるということです。患者さんが医療者に求めているのは、体や心の痛みの相談だけではなく共に考え、気持ちの揺れに寄り添う役割であると感じます。難治性の疼痛を抱えている方や多様化する患者さんの相談に、目の前にいる人(医療者)が相手(患者・家族)の求めていることに純粹に対応していくこと。患者さんを理解しようとするその積み重ねは患者さんが自分のそばに緩和ケアマインドを感じるきっかけとなり、医療者との信頼関係の構築や、痛みの閾値をあげる因子となって良い連鎖をもたらしていくと感じています。

より痛みがない状態で、その人らしくすごせるための方法を検討していくために、『あせらず、あわてず、あきらめず』患者さんを支えるためのフォローアップを発揮することが、がん性疼痛看護認定看護師の役割だと考えています。

地域の皆様の痛みの困りごとに、活用してもらええる人材になれるよう努力していきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願ひします。



## 新潟県立がんセンター新潟病院 平成 26 年度地域医療連携講演会

- 日時：平成 27 年 3 月 11 日 (水) 19:00 より
- 場所：新潟県立がんセンター新潟病院 講堂 (2 階)
- プログラム：

講演 1. 成澤林太郎 臨床部長

対策型胃がん検診の新しい展開 —ガイドライン改訂を踏まえて—

講演 2. 北村康男 泌尿器科部長

増加する前立腺癌 —さらなる病診連携へ向けて—

講演 3. 梨本篤 副院長

5 大がんの地域連携について —現状と問題点—

連絡先：地域連携・相談支援センター (直通電話 025-266-5161)

新潟県立がんセンター新潟病院 平成27年2月外来診療予定表

		月	火	水	木	金
内	401診	D 張 高明	A 成澤 林太郎	D 廣瀬 貴之	D 移植外来(2,4週)	B 小山 建一
	402診	C 高山 亜美	D 今井 洋介	C 大倉 裕二	D 石黒 卓朗	D 今井 洋介
	501診	C 大倉 裕二	F 谷 長行	F 谷 長行		F 谷 長行
	502診	A 青柳(午前) A 加藤(午後)	E 大山 泰郎	A 加藤 俊幸	E 大山 泰郎	B 阿部 徹哉
	601診	B 横山 晶	A 栗田 聡(隔週)	B 阿部 徹哉	A 栗田 聡	B 田中 洋史
	602診	A 塩路 和彦	A 船越 和博	A 佐々木 俊哉	A 船越 和博	C 高山 亜美
	201診	B 田中 洋史		B 樋浦 徹		B 才田 優
科	新患 (2診体制)	A 成澤 林太郎 A 佐々木 俊哉 B 阿部 徹哉 F 谷 長行	A 青柳 智也 B 小山 建一 C 大倉 裕二 D 石黒 卓朗	A 船越 和博 B 田中 洋史 D 今井 洋介 E 大山 泰郎	A 加藤 俊幸 B 才田 優 C 高山 亜美 D 廣瀬 貴之	A 塩路 和彦 A 栗田 聡 B 樋浦 徹 D 古田 夏恵
	*新患は2名の医師が担当します。当日の担当医についてはお問い合わせください。					
	A：消化器 B：呼吸器 C：循環器 D：血液 E：内分泌 F：糖尿病					
小児科	1診	小川 淳	渡辺 輝浩	細貝 亮介	小川 淳	渡辺 輝浩
	2診				専門外来(11:00~ 2週は移植外来)	細貝 亮介
外科	1診	佐藤 信昭(乳腺)	梨本 篤(胃)	土屋 嘉昭(肝胆臓)	中川 悟(食道)	瀧井 康公(大腸)
	2診	金子 耕司(乳腺)	松木 淳(胃)	野村 達也(肝胆臓)	藪崎 裕(胃)	丸山 聡(大腸)
	3診	辰田 久美子(乳腺)	右田/高橋 [交替]	神林 智寿子(乳腺)	市川/會澤 [交替]	野上 仁
	予防センター-乳腺		金子/辰田	佐藤 信昭	神林 智寿子	神林/金子 [交替]
*乳腺外科については原則予約制となりますので、あらかじめご了承ください。						
呼吸器外科		吉谷 克雄	青木 正	岡田 英	青木 正	岡田(1,3,5週) 吉谷(2,4週)
整形外科	新患	畠野/村井/有泉 [交替]	畠野 宏史	小林 宏人	有泉 高志	村井 丈寛
	再来	小林 宏人	有泉 高志	村井 丈寛	畠野 宏史	小林 宏人
*整形外科は完全紹介制となりますので、あらかじめご了承ください。						
神経内科		原山 尋実	二宮 格	原山 尋実		原山 尋実
脳神経外科	1診					宇塚 岳夫 (2,4週の午後)
	2診	高橋 英明		高橋 英明	高橋 英明	高橋 英明
婦人科	1診	笹川 基	本間 滋	笹川 基	柳瀬 徹	本間 滋
	2診	柳瀬 徹	菊池 朗	菊池 朗	菊池 朗	笹川 基
	3診			本間 滋	本間 滋	
*婦人科3診については再診予約のみの対応となりますので、ご了承ください。						
皮膚科	1診	高塚 純子	結城 明彦	竹之内 辰也	結城 明彦	高塚 純子
	2診	結城 明彦	竹之内 辰也	結城(1,3,5週) 高塚(2,4週)	高塚 純子	竹之内 辰也
泌尿器科	1診	北村 康男	小林(1週) 斎藤(2週) 鳥羽(3,4,5週)	斎藤 俊弘	斎藤 俊弘	北村 康男
	2診	小林 和博	ピリーム	小林 和博	鳥羽 智貴	ピリーム
*新患については紹介状が必要となりますので、あらかじめご了承ください。						
眼科		原 浩昭	原 浩昭	原 浩昭	原 浩昭	原 浩昭
頭頸部外科	1診	佐藤 雄一郎	植木 雄志		佐藤 雄一郎	佐藤 雄一郎
	2診	森 香織	森 香織		植木 雄志	森(1,3週) 植木(2,4週)
放射線治療科	1診	杉田 公	杉田 公	杉田 公	松本 康男	松本 康男
	2診	松本 康男	松本 康男	松本 康男	杉田 公	杉田 公
	3診	金本 彩恵	金本 彩恵	金本 彩恵	金本 彩恵	金本 彩恵
*木曜日の新患依頼は対応できない場合がございます。ご了承ください。						
麻酔科		丸山 洋一、富田 美佐緒(月~金 予約可能)、高田 俊和(火~金 予約可能)				
形成外科				坂村 律生	坂村 律生	
緩和ケア科		齋藤 義之	齋藤 義之	齋藤 義之	齋藤 義之	齋藤 義之
*当院に受診中であり、主治医より紹介された方を対象としております。						
歯科口腔外科 (日本歯科大学より)		午前のみ		午前/午後		午前/午後
*当院に受診中であり、主治医より紹介された方を対象としております。						

※ 変更となる場合がありますので、事前にご確認ください。(電話：025-234-0011)

新潟県立がんセンター新潟病院 地域連携・相談支援センター(地域連携部門)

TEL:025-234-0011 FAX:025-234-0022 受付時間 月~金 8:30~17:00

地域連携・相談支援センターを通して予約した場合、原則として予約日当日に行える検査

CT、腹部超音波、MRI、食道・胃・十二指腸内視鏡、PET-CT

時間外のFAXについては、平日夜は翌朝、金曜夜から日曜は月曜の朝にお返事申し上げます